

連結決算説明 2018年12月期



(株)クボタ 取締役専務執行役員 企画本部長
吉川 正人

2019年2月20日 (水)



2018年12月期第1四半期より、従来の米国基準に替えて国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。

また、前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに組み替えて比較分析を行っております。

2018年12月期連結決算概要

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期	2017年12月期	増減		直近予想比増減 (2018年11月予想)	
			金額	%	金額	%
売上高	18,503	17,510	+ 993	+ 5.7	+ 203	+ 1.1
国内	5,773	5,638	+ 135	+ 2.4	+ 33	+ 0.6
海外	12,730	11,872	+ 857	+ 7.2	+ 170	+ 1.4
営業利益	10.2% 1,893	11.4% 2,000	▲ 106	▲ 5.3	▲ 147	▲ 7.2
税引前利益*	10.7% 1,972	12.2% 2,140	▲ 168	▲ 7.8	▲ 128	▲ 6.1
親会社の所有者に 帰属する 当期利益	7.5% 1,386	7.7% 1,342	+ 44	+ 3.3	▲ 64	▲ 4.4

(億円)	2018年12月期	2017年12月期末	増減	
			金額	%
資産合計	28,957	28,324	+ 633	+ 2.2
親会社の所有者に 帰属する持分	13,399	12,911	+ 488	+ 3.8

* IFRS第9号の適用により、2018年12月期以降は損益計算書に有価証券売却益が計上されませんが、2017年度には+84億円計上されている影響が含まれる。なお、2017年12月期には、有価証券売却益（+84億円）が計上されています。

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 3

- 税引前利益の減にはIFRSの新会計基準適用により、2018年度から計上されなくなった株式売却益が2017年度には+84億円計上されている影響が含まれる
- 直近予想との比較では
 - ✓ 売上高の増は、主に機械の海外、特に北米や欧州での販売増による
 - ✓ 利益の未達は前期末に為替が急激に円高に動いたこと、台風による生産の遅れに対応するため、物流費などのコストが想定以上に発生し、収益性が一時的に悪化したこと、在庫不足を補うために日本からの出荷を増加させたもののディーラーへの卸売までは至らず売上計上が1月にずれ込んだことなどによる

事業セグメント別売上高

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期	2017年12月期	増減	
			金額	%
機械	15,276	14,365	+ 911	+ 6.3
国内	3,089	2,945	+ 144	+ 4.9
海外	12,187	11,420	+ 767	+ 6.7
水・環境	2,923	2,857	+ 66	+ 2.3
国内	2,384	2,407	▲ 23	▲ 1.0
海外	539	450	+ 89	+ 19.9
その他	304	289	+ 15	+ 5.3
国内	300	286	+ 15	+ 5.1
海外	4	3	+ 1	+ 25.6
売上高合計	18,503	17,510	+ 993	+ 5.7
国内売上高	5,773	5,638	+ 135	+ 2.4
海外売上高	12,730	11,872	+ 857	+ 7.2

為替の影響（▲60億円）を除くと、機械海外は+7%の増。
海外売上全体は+8%の増

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 4

- 機械、水・環境、その他ともに増加

事業セグメント別売上高（前期比）

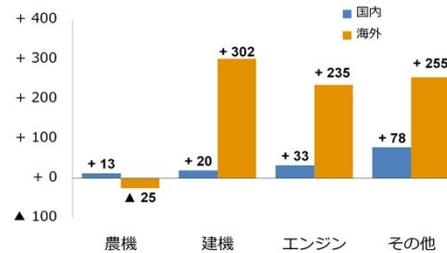
For Earth, For Life
Kubota

機械 +911億円（国内：+144 海外：+767）

国内 ・トラクタ、田植機、コンバインがシェアアップ等により微増
・農業関連商品、エンジンも増

海外 ・トラクタは北米、タイなどを中心に増
・コンバイン、田植機は中国の市場低迷により大幅減
・建機、エンジンは全世界的な需要拡大により、北米、欧州、中国など主要地域で大幅増
・その他は主に部品、金融収益、インプルメントが北米で増

■ 機械売上増減の内訳（億円）



水・環境 +66億円（国内：▲23 海外：+89）

国内 パイプはポンプや工事が増も、鉄管が大幅減。環境は各種環境プラントや排ガス処理等のEPC事業が増。社会インフラは土木工用鋼管（杭）が増

海外 パイプは中東向けの鉄管や工事が増。環境は浄化槽が増。社会インフラは素形材が増

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 5

①機械国内

- ・ +144億円 (+5%) の増
- ・ 農機はシェアアップや担い手への拡販などによりトラクタ、田植機、コンバインともに増加して+13億円 (+1%) の増
- ・ 建機は堅調な需要に加え、前期の需要が排ガス規制強化を控えた大型機にシフトしていた反動もあって+20億円 (+6%) の増
- ・ エンジンはOEM先の北米向け生産の拡大などにより+33億円 (+23%) の増
- ・ その他は農業関連商品などの増加を受け、+78億円 (+5%) の増
- ・ その他の増には自販機事業撤退に伴う▲60億円の減が含まれる

②機械海外

- ・ 全体で+767億円 (+7%) の増。内訳は、農機▲25億円 (▲0%) 減、建機+302億円 (+14%) 増、エンジン+235億円 (+19%) 増、その他+255億円 (+11%) 増
- ・ 農機のうち、トラクタは+281億円 (+6%) の増
 - 北米は好景気に伴う小型機の需要拡大や中型機の市場底打ち、ユーティリティ・ビークルの新機種効果などにより増
 - タイも農産物価格の上昇や雨季の天候が概ね良好に推移したことなどを背景に増
- ・ 農機のうち、作業機（コンバイン、田植機等）は▲306億円 (▲26%) の減
 - 中国ではコントラクタ間の競争が激化するなかで、米価低迷や中古機価格の下落などにより市場が大幅に縮小し、コンバイン、田植機ともに減
- ・ 建機は各地域とも増
 - 北米は台風による生産遅れなどによる在庫不足の影響があったものの、需要拡大などによりミニバックホー、コンパクトトラックローダ、スキッドステアローダの主要3機種がそろって増
 - 欧州も旺盛な住宅・工事需要を背景に増
 - 中国も工事量の増大や労働力不足を背景に大幅増
- ・ エンジンも全世界的な建産機需要の拡大や、欧州での排ガス規制強化に伴う前倒し需要の発生などにより大幅増
- ・ その他は、主に北米でのサービス部品や金融収入の増加、およびグレートプレーンズ社のインプルメントの増による
- ・ 地域別売上高は、中国の農機が大幅に減少したことによりアジアが減少するも、北米、欧州で大きく増加

③水・環境

- ・ 国内は▲23億円 (▲1%) の減
 - パイプ関連はポンプや工事が増加したものの、鉄管が大幅減
 - 環境関連は各種環境プラントや、排ガス処理等のEPC（設計・調達・建設）事業が増

- 社会インフラ関連は土木工事用鋼管杭などが増
- 海外は+89億円 (+20%) の増
 - 中東向けの鉄管、中国の浄化槽、石油化学プラント向けの素形材などが増

営業利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期		2017年12月期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	1,893	10.2	2,000	11.4	▲ 106	▲ 5.3

営業利益 (▲106億円) の増減要因

1.為替変動	米ドル(112円→110円) ユーロ(127円→130円) 他	▲30億円 +60億円 +0億円	+30億円
2.為替差損益			▲67億円
3.原材料	機械(鋼材、買入部品・CD/CU) 水・環境(鉄スクラップ 他)	▲85億円 ▲45億円	▲130億円
4.インセンティブ率変動	北米▲66億円 中国▲13億円 他		▲66億円
5.人件費増減	売上原価 販管費	▲24億円 ▲59億円	▲83億円
6.増販益			+360億円
7.その他			▲150億円

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 6

- 米国会計基準では営業外であった為替差損益がIFRSの適用により当期から営業利益に含まれる
- 原材料価格は、鋼材や鉄スクラップ、塩ビレジンの価格上昇による
- インセンティブ率の変動は主に北米での金利上昇による
- その他は主に販売経費や工場固定経費の増であり、減価償却費、研究開発費、エンジンの空輸費用などが増

事業セグメント別営業利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)		2018年12月期累計 実績	2017年12月期累計 実績	増減
機械	売上高	15,276	14,365	+ 911
	セグメント利益	2,009	2,007	+ 1
	利益率	13.2%	14.0%	▲0.8P
水・環境	売上高	2,923	2,857	+ 66
	セグメント利益	199	244	▲ 45
	利益率	6.8%	8.5%	▲1.7P
その他	売上高	304	289	+ 15
	セグメント利益	30	30	+ 0
	利益率	9.9%	10.4%	▲0.5P
全社/消去	セグメント利益	▲ 345	▲ 282	▲ 62
計	売上高	18,503	17,510	+ 993
	営業利益	1,893	2,000	▲ 106
	利益率	10.2%	11.4%	▲1.2P

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 7

- 機械は、原材料価格の高騰やインセンティブ率の悪化、販売費の増加などの減益要因を国内外での増収やユーロに対する円安効果などで補い前期並み
 - ✓ 世界的な需要の増加や、台風による生産遅れなどにより発生したエンジンの空輸に伴う運送費の悪化は▲40億円程度の減益要因
- 水・環境は、主力の国内向け鉄管の大幅減による構成悪化や原材料価格高騰などにより減益
- 全社/消去の減益は為替差損益の悪化による

金融収益・金融費用（ネット）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2018年12月期	2017年12月期	増減
金融収益・費用（▲）	79	141	▲ 61
金融収支	71	65	+ 6
有価証券売却益 *	-	84	▲ 84
その他	8	▲ 8	+ 17

* IFRS第9号の適用により、2018年12月期以降は損益計算書に有価証券売却益が計上されません。

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 8

- 金融収益・費用（ネット）の悪化は、主に有価証券売却益が計上されなくなったことによる
- 保有株式の売却は当期も実施

税引前利益・当期利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期		2017年12月期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
税引前利益	1,972	10.7	2,140	12.2	▲ 168	▲ 7.8
法人所得税 (実効税率)	▲ 491 (24.9%)		▲ 732 (34.2%)		+ 241	
持分法による投資損益	20		25		▲ 4	
当期利益	1,501	8.1	1,433	8.2	+ 68	+ 4.8
当期利益の帰属						
親会社の所有者	1,386	7.5	1,342	7.7	+ 44	+ 3.3
非支配持分	116	0.6	91	0.5	+ 24	+ 26.4
1株当たり配当	34 円		32 円		+ 2 円	
配当性向	30 %		30 % *		+ 1 P	
自己株消却額 (億円)	29		132		▲ 103	
総還元性向	32 %		39 % *		▲ 7 P	

*2017年12月期の配当性向・総還元性向はIFRSに組み替えた利益に対する比率です。

2018年12月に自己株1,500,000株を消却

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 9

- 税引前利益は前年の株式売却益を除けば実質▲84億円の減
- 法人所得税は米国の連邦法人税率の引き下げにより実効税率が低下したことや、2017年度に当該法人税率の引き下げ決定に伴う繰延税金資産の取り崩しが発生していたため大幅な負担減
- 通期の配当額は前年比+2円増配の34円
- 自己株消却は29億円（150万株）

株主還元推移

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2015年	2015年	2016年	2017年	2018年	増減	累計 (4年9ヶ月)
	3月期	12月期 (9ヶ月)	12月期	12月期	12月期		
	米国基準				IFRS		
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (1株当たり)	1,395 (111.68円)	1,101 (88.47円)	1,325 (106.58円)	1,364 (110.30円)	1,386 (112.44円)	+ 22 (+2.14円)	6,572
還元額							
配当 (1株当たり)	349 (28円)	349 (28円)	373 (30円)	395 (32円)	419 (34円)	+ 24 (+2円)	1,885
自己株消却 (百万株)	77 (4.0百万株)	25 (1.3百万株)	60 (3.8百万株)	132 (7.1百万株)	29 (1.5百万株)	▲ 103 (▲5.6百万株)	323
還元額計	426	374	433	527	448	▲ 80	2,208
配当性向	25%	32%	28%	29%	30%	+ 1P	29%
総還元性向	31%	34%	33%	39%	32%	▲ 6P	34%

配当性向 目標 30% を継続

自己株買取・消却 * 毎年 実施 を継続

総還元性向 毎年 30%超 を継続

* 自己株買取・消却： 買取“即”消却を継続する。また、買取資金には主に資産(保有株等)の
売却手取金を充当する(有利子負債の抑制)

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 10

- 株主還元の基本方針は変更なし
- 前期の配当性向は30.2%、総還元性向は32.3%といずれも目標の30%を超過

財政状態計算書（資産）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2018年12月期	2017年12月期末	増減	為替を除く 増減
流動資産	16,395	16,084	+ 311	
現金及び現金同等物	2,291	2,307	▲ 16	
営業債権	6,604	6,391	+ 213	+ 380
金融債権	2,673	2,507	+ 166	
棚卸資産	3,707	3,589	+ 118	+ 260
その他	1,120	1,291	▲ 170	
非流動資産	12,561	12,239	+ 322	
金融債権	6,219	5,595	+ 624	
その他	6,342	6,645	▲ 302	
資産合計	28,957	28,324	+ 633	
金融債権計	8,891	8,102	+ 790	+ 1,040

<ご参考> 海外子会社期末日レート

	（円）		
米ドル	111	113	▲ 2
ユーロ	127	135	▲ 8

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 11

- 資産合計は前期末比+633億円（+2.2%）の増
- 営業債権は為替の影響を除いた実質ベースで+380億円の増
 - 販売が好調な欧米の販売会社などで増加
- 棚卸資産は実質+260億円の増
 - 農機市場が大幅に縮小した中国で在庫を削減したものの、台風などの影響により日本から海外子会社への出荷が年末に集中した影響などにより増加
- 金融債権は流動・非流動あわせて実質+1,040億円の増
 - 主に北米やタイの小売好調による
 - 金融債権の回収は依然良好

財政状態計算書（負債）

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期末	2017年12月期末	増減	為替を除く 増減
流動負債	9,228	9,175	+ 54	
社債及び借入金	3,491	3,635	▲ 144	
営業債務	3,068	2,861	+ 206	
その他	2,670	2,678	▲ 8	
非流動負債	5,464	5,393	+ 71	
社債及び借入金	4,902	4,706	+ 196	
退職給付に係る負債	145	129	+ 16	
その他	417	558	▲ 141	
負債合計	14,692	14,568	+ 124	
有利子負債	8,393	8,341	+ 52	+ 260
DEレシオ（ネット）	0.46	0.47	▲ 0.01	
金融を除くDEレシオ（ネット）	▲ 0.18	▲ 0.14	▲ 0.04	

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 12

- 負債は+124億円（+0.9%）増
- 有利子負債は流動・非流動あわせて実質+260億円の増
 - 社債の償還により親会社で減少するも、金融債権の増により北米で増加

財政状態計算書（資本）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2018年12月期	2017年12月期末	増減
親会社の所有者に帰属する持分	13,399	12,911	+ 488
資本金	841	841	+ 0
資本剰余金	853	850	+ 3
利益剰余金	11,354	10,402	+ 952
その他の資本の構成要素	353	819	▲ 466
在外営業活動体の為替換算差額	▲ 192	57	▲ 249
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	546	763	▲ 217
自己株式	▲ 3	▲ 2	▲ 1
非支配持分	866	845	+ 21
資本合計	14,264	13,756	+ 509
親会社所有者帰属持分比率	46.3%	45.6%	+ 0.7P

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社 Kubota 13

- その他の資本の構成要素の減は為替や株価の変動による

親会社所有者帰属持分当期利益率（ROE）推移

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2015年3月期	2015年12月期 (9ヶ月)	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	増減
	米国基準			IFRS		
親会社所有者帰属持分 (株主資本)	11,001	11,403	11,988	12,911	13,399	+ 488
親会社の所有者に帰属する 当期利益 (当社株主に帰属する当期純利益)	1,395	1,101	1,325	1,342	1,386	+ 44
親会社所有者帰属持分 当期利益率 (株主資本利益率)	13.7%	-	11.3%	10.8%	10.5%	▲ 0.2P

【ご参考(非監査)】

(億円)	2014年1~12月 (12ヶ月、非監査)	2015年1~12月 (12ヶ月、非監査)
株主資本	10,730	11,403
当社株主に帰属する 当期純利益	1,393	1,494
株主資本利益率	14.0%	13.5%

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 14

- ROEは7期連続で2桁を維持
- 前期比▲0.2ポイントの低下

キャッシュ・フロー計算書

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期	2017年12月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	891	1,372	▲ 480
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 588	▲ 460	▲ 128
有形固定資産及び無形資産の取得	▲ 634	▲ 689	+ 55
その他	46	230	▲ 183
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 278	▲ 326	+ 48
為替レート変動の現金及び現金同等物に対する影響	▲ 42	27	▲ 69
現金及び現金同等物の純増減	▲ 16	613	▲ 629
フリーキャッシュ・フロー	258	683	▲ 425

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 15

- 営業キャッシュフローは+891億円の収入
 - 内訳は、利益と減価償却費で+1,998億円の収入、金融債権の増で▲973億円の支出、その他▲133億円の支出
 - 金融債権の増減は米国基準では投資キャッシュフローに、IFRSでは営業キャッシュフローに含まれる
 - 前年比での収入減は、金融債権の増加や棚卸資産の増加による
 - 引き続き棚卸資産の削減を通じた営業キャッシュフローの拡大をめざす

金融事業の状況 <ご参考（非監査／IFRSベース）>

For Earth, For Life
Kubota

財政状態計算書

(億円)	2018年12月期		2017年12月期末	
	金融事業	金融事業を除く ベース	金融事業	金融事業を除く ベース
資産合計	11,011	19,071	9,967	19,201
現金及び現金同等物	207	2,084	126	2,181
営業債権	311	6,312	291	6,108
金融債権	8,891	-	8,102	-
棚卸資産	-	3,707	-	3,589
有形固定資産	6	3,295	5	3,213
その他	1,596	3,673	1,443	4,111
負債合計	9,320	6,344	8,515	6,744
有利子負債	8,757	-	8,071	514
その他	563	6,344	443	6,229
資本合計	1,691	12,727	1,453	12,457

損益計算書（金融事業）

(億円)	2018年12月期	2017年12月期	増減	
	金額	金額	金額	%
売上高	659	591	+ 68	+ 11.5
営業利益	40.8% 269	42.1% 249	+ 20	+ 8.0
親会社の所有者に帰属する	27.6%	21.1%		
当期利益	182	125	+ 58	+ 46.1

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 16

- 非金融事業は無借金状態を維持
- 金融事業は十分な収益性を維持
 - 米国連邦法人税率低下の影響による法人税の負担減により純利益率も大幅に改善

機械事業の市場環境

市場環境（北米）

For Earth, For Life
Kubota

米国

景気の先行きに不透明感はあるも、良好な景気を背景にトラクタ、建機、エンジンの各市場は緩やかな成長を持続

トラクタ

小型は底堅い景気を背景に成長が持続。中・大型は市場が底打ちから回復に向かう。UVは昨年発売した新機種 of 早期市場浸透を図る

建機

金利上昇や住宅価格の高騰を受けて市場の伸びは鈍化するものの、緩やかな拡大が持続。CTLの新機種投入により大幅な事業拡大を見込む

エンジン

旺盛な建産機需要を背景に好調な受注環境が持続

■トラクタ市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-12月
2017年	0-40馬力	+13.7%	+11.2%	▲1.7%	+8.9%	+12.0%	+7.8%
	40-120馬力	▲4.0%	▲1.4%	▲4.0%	+2.4%	▲2.5%	▲1.6%
	0-120馬力	+7.3%	+7.7%	▲2.4%	+6.5%	+7.5%	+4.7%
2018年	0-40馬力	+1.6%	+11.6%	+13.1%	+7.3%	+8.3%	+9.2%
	40-120馬力	▲2.1%	+6.5%	▲0.1%	+2.4%	+3.0%	+2.1%
	0-120馬力	+0.4%	+10.3%	+8.7%	+5.5%	+6.8%	+7.0%

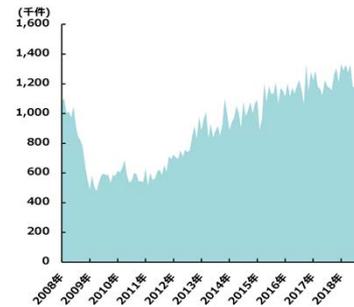
出展：AEM (Association of Equipment Manufacturers)

■0-8tバックホー市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-12月
2017年		+12.2%	+12.4%	+12.0%	+19.4%	+12.3%	+14.0%
2018年		+5.9%	+15.3%	+14.1%	+0.8%	+11.6%	+9.3%

出展：AEM (Association of Equipment Manufacturers)

■米国住宅着工件数（季節調整済・年率換算）



出展：米国国勢調査局 (U.S. Census Bureau)

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社 Kubota 18

- 主力の米国では、米中貿易摩擦や不安定な株式市場などを背景に、景気の先行きに不透明感はあるも足下の景気は堅調
 - 住宅着工は120万程度の高水準で推移
- トラクタ
 - ホームオーナー向けが中心の小型（40馬力以下）は、緩やかな成長が継続
 - 競合他社との競争が緩和されるとは考えにくく、各社とも2018年並みの強いインセンティブプログラムを維持する見込み
 - 中型（40馬力～120馬力）は、2018年の市場台数が前年比でプラスに転じており、緩やかな回復が続く見込み
 - 大型（120馬力以上）についても、市場は底打ちから緩やかな回復に向かう
 - 当社の大型トラクタは2018年も2桁の伸びとなっており、今年もシェアの拡大と更なる増販をめざす
 - デイラーへの出荷が遅れたため十分な小売につなげることができなかったユーティリティ・ビークルの高速ガソリンモデルについても、顧客認知度を高め、早期市場浸透を図る
- 建機
 - 金利上昇や住宅価格の高騰により、市場の伸びは鈍化する
 - 新モデルを投入するCTLの新機種効果に加え、大手レンタル会社の開拓、ディーラー網の強化などを軸に大幅な事業拡大を見込む
- エンジン
 - 建産機や冷凍機向けなど大手OEMからの受注が好調に推移しており、本年も成長が続く見込み
- 鋼材価格の高騰や金利上昇などによるコストアップを受けた製品値上げを3月から実施し、北米事業の収益性改善を図る

欧州

農業市場は前年の異常気象による農家収入の減少により低調。
建機市場は需要は高水準ながら前年を下回る

トラクタ

小型は前年の異常気象による低迷からの回復が見込まれるものの、英国のEU離脱の影響等により需要は緩やかな回復に留まる。
中型・大型は農家収入の減少により需要は低調。
製品供給力の回復によるシェアアップを目指す

インプラメント

農用市場の低迷により、強い需要は期待できず

建機

英国のEU離脱やイタリアの財政不安などによる先行き不透明感や、ここ数年で需要が急拡大してきた反動により市場は縮小。
販売網の強化や新機種導入を通じ、シェアの拡大を目指す

エンジン

本年適用開始の新排ガス規制（Stage V）の前倒し需要の反動はあるものの、主要顧客からの受注は良好であり、大きな落ち込みは想定せず

- **トラクタ**
 - 中型（農業市場向け）は、昨年発生した干ばつなどの異常気象により農家収入が減少しており、市場は低迷する見込み
 - 小型は、フランス、ドイツ、イタリアなどで異常気象による需要低迷からの回復が見込まれるものの、英国のEU離脱の影響などにより、需要は緩やかな回復に留まる見込み
 - トラクタ市場全体では需要は縮小するものの、製品供給力の回復に伴うシェアアップにより、販売は増加する見込み
- **農業用インプラメント**
 - 農業市場の低迷により強い需要は期待できず
- **建機**
 - 英国のEU離脱やイタリアの財政不安などによる先行き不透明感や、ここ数年で需要が急拡大してきた反動もあり、欧州全体の需要は高水準ながら前年比減を想定
 - 販売網の強化や新機種の導入を通じてシェアの拡大をめざす
- **エンジン**
 - 本年から適用が開始された新排ガス規制Stage Vへの切り替えに伴い、昨年の駆け込み需要からの反動減はあるものの、主要顧客からの引き合いは依然強いことから、需要の落ち込みは限定的
 - 出荷台数の減少はStage Vへの切り替えに伴う単価上昇などで補う見込み

タイ・
周辺国

昨年の収穫量増などにより、需要は緩やかな成長を見込む
カンボジアではコメやキャッサバの輸出増により市場拡大

トラクタ・
コンバイン

稲作向けは堅調な需要を想定。政府による稲作から他の作物への転作奨励の影響はあるが、市場環境は良好であり、トラクタの需要は緩やかに拡大。コンバインは東北部での干ばつによる低迷からの回復を見込む。キャッサバの輸出好調により畑作向けは需要拡大を見込む

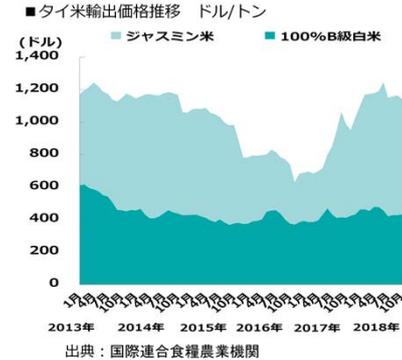
建機

バンコクや地方都市でのインフラ投資継続に伴う労働力不足により、市場は拡大。市場の拡大により徐々に競争が本格化

周辺国

<カンボジア>
米やキャッサバの輸出好調により市場は拡大

<ミャンマー>
急激なチャット安の影響緩和や、機械化の進展により市場は拡大



- タイは、昨年の作物収穫量が増加したことや米価が高い水準で安定していることから、今年も需要は緩やかに拡大
- 稲作向け
 - 市場環境は良いものの、昨年の収穫量が高水準だったことから、政府による稲作から他の作物への転作が奨励されており、トラクタの需要は緩やかな増加に留まる
 - コンバインは昨年主要地域である東北部の干ばつにより需要が低迷していた反動により、需要は大幅に回復する見込み
- 畑作向け
 - サトウキビの買取価格が低迷しているものの、キャッサバは輸出の好調が続いており、畑作全体では需要拡大を見込む
- 建機
 - バンコクや地方都市でのインフラ投資の継続により、市場は拡大する見込み
- 周辺国
 - カンボジアやラオスでは米やキャッサバなどの輸出好調により、市場は拡大
 - ミャンマーは昨年後半から急激に進んだチャット安の影響が続くものの、徐々にその影響が緩和されることや機械化の進展に伴い市場は緩やかに拡大

中国

中央政府農機購入補助金は現時点で未定。農機市場は緩やかな縮小が継続。市場縮小を前提に収益性の改善を図る。建機市場は拡大

トラクタ

穀物価格や中古機価格の下落を受け、市場の下落傾向は継続。高作業効率ニーズを受けて、市場の高馬力化は一層進展

コンバイン

コントラクタ間の競争激化や、米価及び中古機価格の下落を受け、市場の縮小は継続。機械化率の低いコーンコンバインのみ市場が拡大。高処理量機へのニーズの移行も進む

田植機

市場は緩やかな縮小が継続

建機

景気が減速傾向となる中で伸びは鈍化するも、活況な都市インフラ工事、労働力不足や人件費高騰を背景に需要の拡大が継続

エンジン

建機向けの好調を持続

■ 中国 中央政府農機購入補助金推移

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
補助金(億円)	第1次	-	-	110	130	200	170	210	228	186	186
	年間計	130	155	175	215	218	238	238	237	186	186

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 21

- 中央政府農機補助金の予算規模は現時点ではまだ明確になっていないものの、前年を上回る可能性は低い
- 2020年から開始される排ガス4次規制に向けた駆け込み需要が一部発生する可能性はありますが、コントラクタ間の競争激化、穀物価格や中古機価格の低迷などの改善は見込めず、厳しい市場環境が継続
- 農機の高馬力・高処理量機へのニーズ移行もさらに進む
- トラクタ・田植機
 - 需要は緩やかな縮小が続く見込み
- コンバイン
 - 機械化率の低いコーンコンバインについては市場が拡大するものの、主力の汎用コンバインや自脱コンバインは緩やかな縮小が続く
- 農機事業は需要の縮小傾向が続くことを前提に、コストダウンの徹底やインセンティブなどの販売施策の見直しを推進し、減収ながら損益改善を見込む
- 建機
 - 中国景気が減速傾向となる中で伸びは鈍化するものの、積極的なインフラ投資の継続により成長は続く
 - 当社が得意とする0~4トンクラスについてはまだ十分に普及しておらず、都市部での労働力不足や人件費の高騰を背景に中期的な需要拡大を見込む
- エンジン
 - 建機向けを中心に好調を持続する見込み

日本

消費増税前の駆け込みや米価回復による好影響はあるが、農家の高齢化などの構造要因もあり市場は緩やかな回復に留まる。建機はオリンピック関連需要の一服感を受け、前年並みを想定

農機

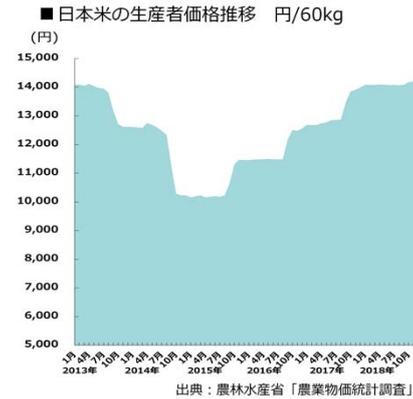
担い手層を中心とする消費増税前の駆け込み需要や米価回復などにより需要は緩やかに回復。農家の高齢化などに伴い小規模農家向けが減少するものの、担い手向けの増を見込む

建機

消費増税前の駆け込み需要が期待されるものの、オリンピック関連の建設需要は一服し、市場は前年並み

エンジン

高水準の需要が継続することにより、前年並みの売上を想定



【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 22

- 昨年の直接支払交付金廃止の影響はあまり見られず、米価回復や、担い手層を中心とする消費増税前の駆け込み需要などを背景に農機需要は緩やかに拡大する見込み
- 建機やエンジンに関わる建設市場は、都市部でのインフラ工事の増加などにより堅調に推移
- 農機
 - 農家の高齢化などに伴い小規模農家向けが減少するものの、農政による農地集積化やスマート農業分野への助成拡充などによる需要拡大が見込まれる担い手向けの増により、売上は増加する見込み
- 建機
 - 消費増税前の駆け込み需要が期待されるものの、オリンピック関連の建設需要は徐々に一服することから、市場は前年並みを想定
 - 当社は新機種の投入やレンタル業者への拡販等を通して、シェア拡大を図る
- エンジン
 - 高水準の需要が続き、大きく伸長した前年並みの売上を維持する見込み

業績予想

2019年12月期業績予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期 (予想)	2018年12月期 (実績)	増減		2019年12月期 2Q累計 (予想)
			金額	%	
売上高	19,700	18,503	+ 1,197	+ 6.5	9,950
国内	6,260	5,773	+ 487	+ 8.4	3,130
海外	13,440	12,730	+ 710	+ 5.6	6,820
営業利益	10.2% 2,000	10.2% 1,893	+ 107	+ 5.6	10.3% 1,020
税引前利益	10.6% 2,080	10.7% 1,972	+ 108	+ 5.5	10.7% 1,060
親会社の所有者に帰属する 当期利益	7.4% 1,450	7.5% 1,386	+ 64	+ 4.6	7.3% 730

事業セグメント別売上高予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期 (予想)	2018年12月期 (実績)	増減	
			金額	%
機械	16,100	15,276	+ 824	+ 5.4
国内	3,230	3,089	+ 141	+ 4.6
海外	12,870	12,187	+ 683	+ 5.6
水・環境	3,290	2,923	+ 367	+ 12.6
国内	2,720	2,384	+ 336	+ 14.1
海外	570	539	+ 31	+ 5.8
その他	310	304	+ 6	+ 2.0
国内	310	300	+ 10	+ 3.3
海外	-	4	▲ 4	▲ 100.0
売上高合計	19,700	18,503	+ 1,197	+ 6.5
国内売上高	6,260	5,773	+ 487	+ 8.4
海外売上高	13,440	12,730	+ 710	+ 5.6

為替の影響(▲470億円)を除くと、機械海外は+9%の増。海外売上全体は+9%の増

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 25

- 国内
 - 福島県双葉町における放射能汚染廃棄物の減容化プロジェクトなどにより、水・環境が大幅増
 - 農機及び農業関連商品、建機などの増加により機械も増
- 海外
 - 水・環境は微増ながら、機械の建機やトラクタが大幅に伸長
 - 為替の影響はドル、ユーロ、パーツ、元など主要通貨がすべて円高となるため、合計で▲470億円のマイナス

営業利益予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期 (予想)		2018年12月期 (実績)		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	2,000	10.2	1,893	10.2	+ 107	+ 5.6

営業利益 (+107億円) の増減要因

1.為替変動	米ドル(110円→108円) ユーロ(130円→122円) 他	▲30億円 ▲55億円 ▲60億円	▲145億円
2.為替差損益			+35億円
3.原材料	機械(鋼材、買入部品・CD/CU) 水・環境(鉄スクラップ 他)	▲90億円 ▲20億円	▲110億円
4.インセンティブ率変動	北米▲76億円 中国+8億円 他		▲63億円
5.増販益			+460億円
6.製品値上げ			+150億円
7.その他			▲220億円

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 26

- 為替感応度は、米ドルが1円の変動につき27億円、ユーロが1円の変動につき7億円
 - 各通貨建ての輸出増加に伴い、米ドルを従来の20億円から、ユーロを従来の6億円からそれぞれ変更
- 当期は2013年以來の米国での製品値上げを含め、製品値上げの効果が全体で+150億円の増益要因
- 「その他」の▲220億円の減益は主に販売費や製造固定費などの増加による

事業セグメント別営業利益予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)		2019年12月期累計 (予想)	2018年12月期累計 (実績)	増減
機械	売上高	16,100	15,276	+ 824
	セグメント利益 利益率	2,070 12.9%	2,009 13.2%	+ 61 ▲0.3P
水・環境	売上高	3,290	2,923	+ 367
	セグメント利益 利益率	200 6.1%	199 6.8%	+ 1 ▲0.7P
その他	売上高	310	304	+ 6
	セグメント利益 利益率	30 9.7%	30 9.9%	▲ 0 ▲0.2P
全社/消去	セグメント利益	▲ 300	▲ 345	+ 45
計	売上高	19,700	18,503	+ 1,197
	営業利益 利益率	2,000 10.2%	1,893 10.2%	+ 107 ▲0.1P

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 27

想定為替レート及び設備投資等

For Earth, For Life
Kubota

■ 為替レート

		2019年12月期 (予想)	2018年12月期 (実績)	2017年12月期 (実績)
円/米ドル	上期(1~6月)	108	109	112
	下期(7~12月)	108	112	112
	年間(1~12月)	108	110	112
円/ユーロ	上期(1~6月)	122	132	122
	下期(7~12月)	122	129	132
	年間(1~12月)	122	130	127

■ 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)	2019年12月期 (予想)	2018年12月期 (実績)	2017年12月期 (実績)
設備投資	1,000	641	522
減価償却費	510	496	451
研究開発費	600	538	434

【2018年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 28

- 設備投資は最大1,000億円
 - 今期は国内での研究開発拠点新設のための用地取得や、エンジンの新機種生産立ち上げなどの投資を予定

本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。



ご清聴ありがとうございました。

For Earth, For Life
Kubota